

富山県医療計画＜小児医療＞への取り組み状況

参考資料5

区分	現 状				目標 2023年	課 題	主 な 施 策	R3年度の実施事業(主なもの)	進捗状況など																																										
	指 標	国策定時	県策定時	県直近																																															
総括	●乳児死亡率	1.9 (出生千対) (2015年)	1.5 (出生千対) (2015年)	1.5 (出生千対) (2018年)	●乳児死亡率、乳幼児死亡率 ⇒低下	■乳児死亡率、乳幼児死亡率、小児死亡率を低下させる。	(以下の施策を実施) ●周産期死亡等の改善に係る検討等を実施。 ●周産期母子医療センターの運営を維持。	(以下の施策を実施) ○周産期死亡等の改善に係る検討会・研修会の開催 ○周産期母子医療センターの運営支援(R2:5病院へ補助)	○算定NICUを有する3病院の産科及びNICUが連携し搬送(受入れ)調整の実施(搬送連絡用直通電話)。搬送状況調査及び分析の実施																																										
	●乳幼児(0-4歳)死亡率	47.2 (乳幼児人口10万対) (2015年)	44.7 (乳幼児人口10万対) (2015年)	37.0 (乳幼児人口10万対) (2018年)																																															
	●小児(0-14歳)死亡率	19.4 (小児人口10万対) (2015年)	23.3 (小児人口10万対) (2015年)	15.1 (小児人口10万対) (2018年)																																															
小児科医師等	●小児科医師数(人)	10.3 (小児人口1万対) (2014年)	12.1 (小児人口1万対) (2014年)	12.0 (小児人口1万対) (2018年)	●小児科医師数(小児人口1万対) ⇒12人以上	■小児科医師の確保が必要。	●小児科医師を志す医学生へ修学資金を貸与。 ●医師が働きやすい勤務環境の整備を支援。 ●小児在宅医療を担う人材の育成を支援。	○医学生への修学資金の貸与(R2:新規貸与10名) ○女性医師の勤務環境の整備促進、定着支援(R2:1病院へ補助) ○各医療機関の勤務環境改善の取組みに対する専門家からのアドバイスなど	○小児科医師数の推移 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th></th><th>富山県</th><th>新川</th><th>富山</th><th>高岡</th><th>砺波</th></tr> <tr><td>H20</td><td>150</td><td>9</td><td>92</td><td>40</td><td>9</td></tr> <tr><td>H22</td><td>158</td><td>8</td><td>99</td><td>42</td><td>9</td></tr> <tr><td>H24</td><td>152</td><td>7</td><td>96</td><td>39</td><td>10</td></tr> <tr><td>H26</td><td>161</td><td>8</td><td>103</td><td>39</td><td>11</td></tr> <tr><td>H28</td><td>162</td><td>8</td><td>103</td><td>39</td><td>12</td></tr> <tr><td>H30</td><td>147</td><td>8</td><td>90</td><td>38</td><td>11</td></tr> </table>		富山県	新川	富山	高岡	砺波	H20	150	9	92	40	9	H22	158	8	99	42	9	H24	152	7	96	39	10	H26	161	8	103	39	11	H28	162	8	103	39	12	H30	147	8	90	38	11
		富山県	新川	富山	高岡	砺波																																													
H20	150	9	92	40	9																																														
H22	158	8	99	42	9																																														
H24	152	7	96	39	10																																														
H26	161	8	103	39	11																																														
H28	162	8	103	39	12																																														
H30	147	8	90	38	11																																														
●小児に対応している訪問看護ステーション数(施設)	2.3 (小児人口10万対) (2013年)	6.7 (小児人口10万対) (2013年)	13.7 (小児人口10万対) (2019年)	●小児対応訪問看護ステーション数 ⇒全国平均			○訪問看護ネットワークセンターの運営支援(訪問看護ステーションからの相談対応、研修会の開催) ○訪問看護ステーションの整備支援(新規開設, サテライト, 規模拡大) ○訪問看護師スキルアップ研修事業(訪問看護師が病院において、医療機器装着患者への最新の看護技術等について習得する研修会の開催)	○小児等(0~19歳)への訪問看護実施事業所数(令和元年)、受入可能事業所数(R1.12) <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>区分</th><th>新川</th><th>富山</th><th>高岡</th><th>砺波</th><th>計</th></tr> <tr><td>訪問看護実施事業所数※1</td><td>3</td><td>10</td><td>10</td><td>3</td><td>26</td></tr> <tr><td>受入可能事業所数※2</td><td>5</td><td>20</td><td>18</td><td>3</td><td>46</td></tr> </table>	区分	新川	富山	高岡	砺波	計	訪問看護実施事業所数※1	3	10	10	3	26	受入可能事業所数※2	5	20	18	3	46																									
区分	新川	富山	高岡	砺波	計																																														
訪問看護実施事業所数※1	3	10	10	3	26																																														
受入可能事業所数※2	5	20	18	3	46																																														
小児救急	●休日夜間小児急患センターが整備された医療圏		4 (2017年)	4 (2020年)	●休日夜間小児急患センターが整備された医療圏 ⇒現状維持	■休日夜間小児急患センターの運営の維持が必要。	●休日夜間小児急患センターの運営を維持。	○休日夜間小児急患センターの運営支援	○休日夜間急患センター ・富山市・医師会急患センター 平日・土曜:19:00~24:00 日曜・祝日:9:00~17:30 18:30~24:00 ・高岡市急患医療センター 平日・土曜:19:00~23:00 日曜・祝日:9:00~23:00 ・砺波医療圏急患センター 平日・土曜:20:00~23:00 日曜・祝日:10:00~17:00 20:00~23:00 ・新川医療圏小児急患センター 平日・土曜:19:00~22:00 日曜・祝日:9:00~12:00 14:00~17:00 19:00~22:00																																										
	●24時間365日対応可能な小児救急の整備された医療圏		4 (2017年)	4 (2020年)	●24時間365日対応可能な小児救急が整備された医療圏 ⇒現状維持																																														
	●小児人口あたり時間外外来受診回数(回)	16,817.2 (小児人口10万対) (2015年)	11,996.1 (小児人口10万対) (2015年)	11,461.5 (小児人口10万対) (2016年)	●時間外外来受診回数 ⇒全国以下を維持しつつ低下	■重症度や緊急度に応じて、適切な受診が行われるよう、県民への啓発が必要。	●「小児救急医療ガイドブック」など、小児救急の適正受診について普及啓発を実施。	○小児救急医療ガイドブックの配布(R2改訂) ○富山県自立支援協議会(重症心身障害・医療的ケア部会)の開催																																											

富山県医療計画＜小児医療＞への取り組み状況

区分	現 状			目標 2023年	課 題	主 な 施 策	R3年度の実施事業(主なもの)	進捗状況など
	指 標	国策定時	県策定時					
小児救急(続き)	<ul style="list-style-type: none"> ●第二次・三次救急病院の救急外来受診者の中で入院が必要でなかった割合(%) ●小児救急電話相談の件数(件) 	<p>国策定時</p> <p>県策定時</p>	<p>83.4 (2016年)</p> <p>4,568.4 (小児人口10万対) (2015年)</p>	<p>84.3 (2017年)</p> <p>9,161.7 (小児人口10万対) (2019年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●第二次・三次救急病院の救急外来受診者の中で入院が必要でなかった割合⇒低下 	<ul style="list-style-type: none"> ■小児救急医療機関の負担軽減のため、小児救急電話相談(#8000)の利用促進について普及啓発が必要。 ●小児救急電話相談(#8000)の利用促進について普及啓発を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国主催の人材養成研修会や講習会への県内医師派遣 ○子ども医療相談電話「#8000」の運営(平日19時～翌9時、土曜13時～翌9時、日曜祝日9時～翌9時) 	<ul style="list-style-type: none"> ○救命救急センター小児科患者数 <ul style="list-style-type: none"> ・県立中央病院1,624名(R1) ・厚生連高岡病院946名(R1) ○#8000の相談件数(H29:6,477、H30:8,661、R1:10,884、R2:6,384)
高度専門医療 小児専門	<ul style="list-style-type: none"> ●小児集中治療管理室(PICU)を有する医療機関数 ●24時間365日対応可能な小児救急の整備された医療圏【再掲】 	<p>全国で41 (2016年)</p>	<p>0 (2016年)</p> <p>4 (2017年)</p>	<p>0 (2020年)</p> <p>4 (2020年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■高度小児専門医療体制の充実について検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●県立中央病院や富山大学附属病院を中心に、高度小児専門医療の充実。 ●小児科を標榜する病院、診療所とがん拠点病院、難病拠点病院、高度小児専門医療機関との連携の充実・強化。 ●県内の小児がん医療を担う医療機関と東海北信越ブロック内小児がん拠点病院との連携の促進。 ●県リハビリテーション病院・こども支援センターにおいて、発達障害など多様な障害への対応を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○小児・AYA世代がん患者妊孕性温存療法研究促進事業 ○がん・生殖医療ネットワーク推進連絡会・研修会の開催 ○国に対する児童精神科医の養成等を要望(H29～) ○県医師会と連携した、かかりつけの小児科医等に対する対応力向上研修の実施(H30～) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各医療圏に小児専門医療を扱う医療機関が整備、富山大学附属病院、県立中央病院、厚生連高岡病院で高度小児専門医療 ○富山大学附属病院で小児心疾患の手術や小児がん診療 小児がん入院患者延数119(R1) ○富山大学附属病院が小児がん連携病院として東海北信越ブロック内小児がん拠点病院と連携 ○県リハビリテーション病院・こども支援センター 初診受付1,420件、うち小児神経・児童精神1,205件(R2)